

世界への道

第1版:2005年10月10日 (Document Code: to-the-world_010.doc)

目次

はじめに.....	1
International Tennis Federation (ITF).....	1
日本テニス協会 (Japan Tennis Association: JTA) と ITF.....	2

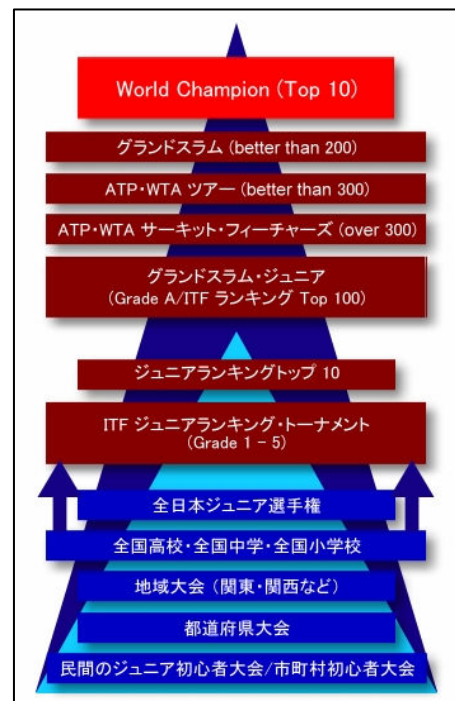
はじめに

以前(と言ってもそう遠い昔ではありませんが・・・)、テコンドーという競技でオリンピックへの出場を決めたと考えられていた女子選手が、2つに分裂している日本のテコンドー団体のどちらに所属するかで、オリンピック出場の是非が議論された記憶がありました。組織によって、また所属するスポーツ団体によって選手に対する待遇が違う事が知られていますが、テニスがどういう組織になっているのか、ちょっと不安になりました。

本ドキュメントは、上記のような問題がテニスでは起こりえないのか、我が子は正しい団体に所属しているのかを明確にするために書き下ろしました。

“エースを狙え!” というブログ

(<http://tennis.target-a.net/>) において御紹介しましたが、世界へははたたくジュニア選手は、左の図表のような経由を辿って世界へ行くようです。図表上青色で示している部分は国内大会を示しており、それ以外が世界での大会を示しています。図表は、文献”確実に上達するジュニアテニス”(2004年:実業之日本社刊)を参照しました。



国内大会へ参加するためには、日本テニス協会 (Japan Tennis Association: JTA) への登録が必須で、それなくして大きな大会への参加は出来ないことが多いようです。当然、末端である民間のジュニア初心者大会/市町村初心者大会等はその限りではないようですが、より上の大会を目指すためには、どうやら ITF、即ち International Tennis Federation に所属する必要があるようです。

本ドキュメントでは、この ITF をまずは突破口として解明してみたいと思います。

International Tennis Federation (ITF)

1911年頃、いろいろな国で組織化され始めたテニス団体を統合し、世界大会を開催したいという必要性がでてきた、と ITF のウェブページ(<http://www.itftennis.com/abouttheitf/abouttheitf/history.asp>)で紹介しています。1913年に12カ国の団体が終結し、最初の世界大会に関する会議が実施され、その場において、ITF の前身である International Lawn Tennis Federation (ILTF) が設立されました。

1923年、ILTF によって”Rules of Tennis (テニス規則)”が策定され、1924年に ILTF によって施行されました。このテニス規則に基づいて、世界大会を開催することが決定され、その開催国がイギリス、フランス、オーストラリア、アメリカの4カ国での開催とされ、これが現在のグラウンドスラムとなっているそう

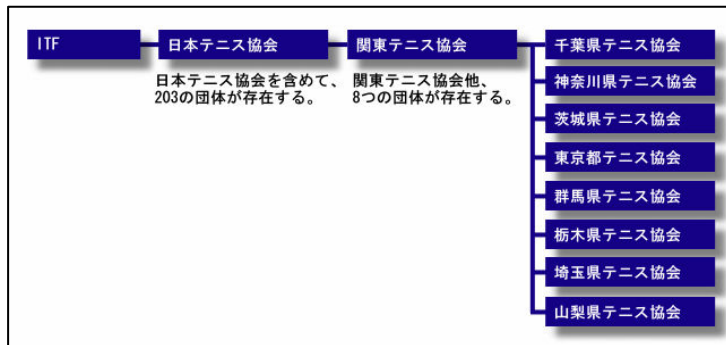
です。

その後、1963年にILTF創立50周年を記念して、Federation Cupが開催されました(現在は、Fed Cup)。これは、国別女子チームで競い合う大会で、1900年から開催されていたDavis Cup(男子の国別チーム対抗戦)に対抗して設置されました。その後、Davis Cupは、ILTFがスポンサーになっています。

1977年、これまでの”Lawn”という単語を取って、International Tennis Federation (ITF) に改名し、新たなスタートを切ったようです。いろいろな経緯があったようですが、現在では、ITF、ATP (The Association of Tennis Professionals)、WTA (Women’s Tennis Association) とは、お互いにスポンサーシップを持っており、密接な関係があるとしています。ちなみに、ATPは、男子のプロフェッショナル選手の団体、WTAは女子のプロフェッショナル選手の団体です。

日本テニス協会 (Japan Tennis Association: JTA) と ITF

現在、ITFは、203カ国のテニス協会を傘下に行っています(2005年1月現在)。その中の一つが日本テニス協会になります。ITFは、年に1回、Annual General Meeting (AGM)を開催していますが、このAGMでテニス規則が改定・決定されています。このAGMは、203カ国が参加することが定例となっているようです。実は、ITF開催の大会に出場するためには、大会規則として各国のテニス協会からのITF登録が必要と決めています。即ち、各個人が勝手に登録出来ないような規則になっています。



日本テニス協会は、その傘下に9つの地域団体(北海道テニス協会、東北テニス協会、北信越テニス協会、関東テニス協会、東海テニス協会、関西テニス協会、中国テニス協会、四国テニス協会、九州テニス協会)を組織し、各地域団体の傘下に都道府県別にテニス団体が組織されています。図は、ITF、日本テニス協会、関東地区を中心とした組織を示したものです。